

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

20196

学校図書館充実事業

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	2	社会を生き抜く子供たちの学力の育成
施策	1	確かな学力を育む教育の推進
取組方針	1	教育課程の充実と学力の向上

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計			
	款			
	項			
	目			
	大事業 中事業			

事業種別	継続	関連個別計画	第2次和歌山市子供読書活動推進計画、第2次教育振興基本計画
事業年度	平成28年度～	担当課・担当課長・Tel	読書活動推進計画 井上 豊英 435-1165
事業実施の根拠法令	学校図書館法	関連課	学校教育課 等

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か) 公立小中学校の全児童生徒の多様な読書活動を一層充実させるために、学校図書館に司書の配置を進める。		全体事業概要 学校図書館の環境整備、学習活動支援、学校と市民図書館の連携調整などを行い、学校における読書活動の充実を図る。			
	事業内容	平成31年度 学校司書は、1人で3校を受け持ち、各校において学校図書館の環境整備、読み聞かせやブックトーク等の読書活動に係る支援、公共図書館からの団体貸出の手続き等を行った。また教員や図書ボランティアとの連携も積極的に行った。	令和02年度 学校教育部教職員課から教育学習部読書活動推進課へ事業移管。学校司書3人と読書活動推進課司書1人、計4人で14校を受け持ち、学校図書館の環境整備、読み聞かせ等の読書活動に係る支援、公共図書館からの団体貸出の利用促進を図った。	令和03年度 学校司書4人と読書活動推進課司書1人、計5人で20校を受け持ち、各校において学校図書館の環境整備、読み聞かせやブックトーク等の読書活動に係る支援、公共図書館からの団体貸出の利用促進を図る。また教員や図書ボランティアとの連携も積極的に行った。	令和04年度 学校司書5人が18校を受け持ち、各校において学校図書館の環境整備、読み聞かせやブックトーク等の読書活動に係る支援、公共図書館からの団体貸出の利用促進を図る。また教員や図書ボランティアとの連携も積極的に行う。	令和05年度 学校司書6人が24校を受け持ち、各校において学校図書館の環境整備、読み聞かせやブックトーク等の読書活動に係る支援、公共図書館からの団体貸出の利用促進を図る。また教員や図書ボランティアとの連携も積極的に行う。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	0	0	6,808	8,841	11,837	10,993	12,256	0	11,845	0
伸び率(%)	0%	0%	0%	0%	73.9%	24.3%	3.5%	△100%	△3.4%	0%
人件費	正規職員	0	0	17,517	17,198	15,359	15,127	13,420	0	0
	正規職員以外	0	0	8,278	7,455	9,865	10,966	11,838	0	0
	小計	0	0	25,795	24,653	25,224	26,093	25,258	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	22	28	27	30	0	0	0
一般財源(税等)	0	0	6,808	8,819	11,809	10,966	12,226	0	11,845	0
所要人数(人)	正規職員	0.00	0.00	2.20	2.16	1.98	1.95	1.73	0.00	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	3.82	3.44	4.30	4.78	5.16	0.00	0.00
主な予算内訳	令和4年度当初予算：人件費12,256千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
学校司書採用人数	人	目標値	1	6	6	9	9	
		実績値	1	4	5	5		
		達成度(%)	100%	66%	83%	55%		
学校司書配置校数(中学校)	校	目標値	17	17	17	17		
		実績値	1	4	5	5		
		達成度(%)	5%	24%	29%	29%		
学校司書配置校数(小学校)※義務教育学校含む	校	目標値	51	51	51	51		
		実績値	2	10	15	13		
		達成度(%)	4%	20%	29%	25%		

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>令和3年度は、令和2年度から学校司書を1名増員し、配置校が14校であったのが20校に増加となった。担当する学校では子供が気軽に本を手にとれるような環境整備を行い、授業テーマに関連する本を提供するなど、学校図書館を活用した学習活動の充実に貢献している。また新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し各学校が新しい本を購入するにあたり、学校司書が本の選書作業や受入作業に携わり、各学校の本の充実に対する支援を行った。</p> <p>学校司書が整備に入った学校では、「本が探しやすくなった」「子供にとって図書館が親しみやすくなった」等の声が寄せられている。</p>
見直し・改善内容	<p>業務内容としては、語彙力が鍛えられる、文章理解力が向上する、集中力が身につくなど様々な効果が期待できる読み聞かせにも力を入れていく。令和5年度には市内の全ての小中学校に学校司書が1度は配置されたことがあるようにしたい。</p> <p>現在は1年ごとに学校司書が1名につき中学校1校と小学校2~3校を担当しているため、5人の学校司書では全17中学校区には3~4年ごとの巡回となる。隔年での実施に向けさらに4人の追加採用を目指していく。</p>